

座談会 実施結果

座談会参加者の状況と意見

【第1回】

参加者：10代後半～20代前半の児童養護施設入所経験者

(全員が18歳まで児童養護施設入所経験あり。)

<参加者の状況>

- ・施設退所後、就職したがほどなく退職し、現在は生活保護受給中。
- ・施設退所後、専門学校へ進学したばかり。アルバイトや学校生活等初めてのことが多すぎて不安が大きい。
- ・施設退所後、専門学校へ進学。専門学校卒業が迫ってきて、就職できるか不安。
- ・施設退所後、大学へ進学。

<金銭管理を含めたアフターケアについて>

- ・高校生のときにアルバイトで貯めたお金、施設入所期間の児童手当と貸与・給付型奨学金で学費と生活費は工面できるが、免許取得、就職時の引っ越し等に係る金額が不足するため、通学しながらのアルバイトが必要。
- ・施設職員に進学に係る費用について説明してもらったことで、早い段階で、今後貯めておく必要がある額を知ることができ助かった。
- ・施設出身者は金銭管理の感覚を身につけるのが難しい。自分は今でも一部を施設職員に管理してもらっている。

<今後必要と思う支援>

- ・自立して生きていくためにも、孤立しないことが重要。必要なときに相談できる相手がいなければならず、社会的資源としてもそのような相談機関や相談者が必要。
- ・人生に迷った人や失敗した人が来ることができる、手助けコーナーのような場所があるとよい。
- ・発達特性や性格問題に寄り添って支援するプログラムを行ってくれる場所があるとよい。
- ・小学生から高校生までが、安心して勉強やスポーツができ、相談もできてモデルとなるような大人がいる居場所が必要。
- ・高校の義務教育化。大学・専門学校の学費ももう少し下げてほしい。お金がないという理由で、やりたいことが妨げられない社会になってほしい。

【第2回】

参加者：20代前半～30代前半の生活保護受給世帯、ひとり親世帯出身者（不登校、ひきこもり、ヤングケアラーの経験もあり。）

＜参加者の状況＞

- ・小学校入学前に両親が離婚したため、小学生のときには学校を休んで幼稚園児の弟の面倒をみることがあった。その影響で学力が身につけていない分野がある。高校のころから不登校になったが、その後、若者支援施設の利用を開始し、支援施設職員の勧めもあって通信制高校に転入し、卒業することができた。
- ・高校生のときに自身が体調を崩し中退。両親の離婚後は母親と暮らしたが、母親も体調を崩し生活保護を受給した。母親は自分に優しくだったが、親に迷惑をかけられない、心配させたくないという心境で親に頼ることができなかった。
- ・小学校入学後すぐに親が自己破産したが、家族の状況が周りとは違うことを理解し始めたのは中学生から。奨学金を借りてまで大学に通うのがいやで、高校卒業後就職したものの仕事は続かず、22歳頃から祖母の介護をすることになった。
- ・小学校高学年から家庭の状況が悪く毎日怒鳴り声が響く状態で、中学校で不登校に。高校には進学しなかったが、兄弟の勧めで若者支援施設に通い始め、そこでできた友人との交流や職員の支援をきっかけに前向きになり、現在は仕事にも就くことができた。

＜今後必要と思う支援＞

- ・自立生活には居宅を構えることや家賃や光熱費に一番お金がかかるので、居宅生活を金銭的にサポートしてくれる制度があるとよい。
- ・若者支援施設は居場所や相談先として非常に心強い。高卒認定を取得する支援も行ってくれ、資格を取ることができた。今後の人生の選択肢を与えてくれた。
- ・居場所、相談先として機能して、ボランティアでもいいので今後の選択肢を与えてくれる場所が必要。
- ・人と出会う場所・繋がる場所がほしいけれど、最初の一步を踏み出すのは勇気がいる。
- ・不登校、ひきこもり、家庭の問題などをLINEなどで気軽に相談できる仕組みがあるとよい。ある電話相談に電話してみたが、ずっと話中で繋がらなかった。
- ・通っていた高校が若者支援施設に繋いでくれた。友人は地方のサポステから紹介してもらった。支援機関同士が繋がって、多くの支援に繋いでもらえると心強い。